

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2020年 3 月 1 日

事業所名 Uライフ平井

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		今年度利用定員を10人へ変更した。	
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	戸外へ車椅子で出られるようにスロープがある。	床のカーペットタイルの劣化がすすんでおり、カーペットタイルを再度糊付けをすることで対応する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	4		毎日送迎前のミーティングで、気づきに対して付箋に記入。その都度改善できることと話し合いが必要な事項を分けて効率的に改善できるシステムにする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		事業所内で月1回は研修の機会を作っている。	外部での研修がある時は、積極的に管理者からも提案をしていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			重心児に合わせたアセスメントは改善が必要
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2		月1回程度の行事ミーティングを行い活動内容を見直していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	3		毎日の開始前ミーティングで子供達の困り感や課題の抽出を行い活動の中に組み込むようにする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		5		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5		STやPTの個別を実施すると共にその日の状況に応じて個別の対応をしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		5		・送迎前の10分間で職員ミーティングをする。前回利用時の様子を共有し、役割り分担を確認する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		5		・帰りの時間は話し合いの時間が確保できないため、翌日での話し合いで情報共有。全体の振り返りとして週1回の時間を確保する。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・利用者帰宅後優先的に記録をしている。 ・記録確認時管理者からアドバイスはしている。		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			多治見市では定例のサービス担当者会議自体を実施していないが必要時行うサービス担当者会議では、児発管が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1		行っているが、学校により年間計画や下校時間の予定が遅かったり変更がこちらに伝達されていないことが多くあるため、学校や母に事前に連絡頂けるように依頼している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			事前に主治医との面談やケース会議に参加している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3		児童発達支援センターからの情報を頂けるようにこちらから働きかけていく。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			法人内への移行は、引き継ぎ書を作成している。 殆どが、法人内の障害福祉サービスへの移行のため、法人外の事業所とは行っていない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		5		研修案内は、こども支援課から頂いている。(児童分野)	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5		長期休暇などに近くの公園外出を行い近隣の子供達が遊ぶ場所へ出かけている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				送迎時に様子を伝えている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3			職員にペアレント・トレーニングについての理解がされておらず、研修を計画し周知することから行う。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3		法人での保護者会はあるが、児童対象の保護者会はない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	3	長期休暇中や年間行事計画は年1回は、その都度保護者へ渡している。	法人での会報はだしているが、独自のものはない。
	35	個人情報に十分注意している	5		事前に保護者へ写真の掲載等について確認。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5		法人のお祭りがある。	
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		虐待防止チェックリストでのチェックは行っていた。	法人内で職員行動指針チェックリストを作成し、保管するようにした。
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			別途重心児については、やむを得ず身体拘束についての同意書を作成中。
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		アレルギーのある利用者に対しておやつカップを別にし分かるようにしている。	
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			